

中学校英語情報誌

Sunshine Letter

2024.1

Vol. **6**

先生方に
役立つ情報
をお届けしています。



ガイドキャラクター
サンシャインくん

自己表現につなげる 本文指導 ～ SUNSHINE フル活用法～

Yuganov Konstantin/Shutterstock.com

中学校で実際に使用されているワークシートをご覧ください！

本資料は「教科書発行者行動規範」に則り、配布を許可されているものです。

Sunshine
Letter は
Webコンテンツと
連動しております。

KAIRYUDO

今回のテーマは…

自己表現につなげる 本文指導

～SUNSHINEフル活用法～



本文指導の入口と出口

学んだ内容で自己表現ができるようにするためには、自己表現に必要な新しい表現を生きた場面で、目的・状況に即して学習し、必要な知識・技能を修得しておくことが基本です。学びの目標を確認したあとに、SUNSHINEのScenesのように、マンガ形式で体験的に新出表現の理解・運用を図れるページがあれば生徒はよりリアルな学びを得られるでしょう。

また、本文の学習では、まとまりのある文章を読み、多様なものの見方・考え方を理解させたいですが、中には教師にとっても生徒にとっても、予備知識を必要とする題材もあるでしょう。そんなとき、本文学習に先立って、その題材に関連したリスニングタスクや映像資料などがあれば、その導入はかなりスムーズになるはずです。さらに、本文の学習では推量発問を通して、題材内容について思考力・判断力を働かせ、自己表現に向かう豊かな学びを実現することが大切です。

そして出口では、読んできた本文の再話にチャレンジさせたいものです。本文内容をふり返る中で既習の表現や題材内容を見直し、自分のことばとして活用することで、書いたり話したりする自己表現活動の準備を進められるでしょう。教科書本文の再話にとどまらず、その内容について自分の意見も付け加えられれば、すばらしい自己表現活動となります。

以上のように、本文指導では、明確な入口と出口を設けて、生徒の目線に立って本文指導を充実させることで、本物のコミュニケーション能力の堅実な育成につながります。

高梨 芳郎

名古屋外国語大学教授・副学長、
福岡教育大学名誉教授。「英語科
教育法」などを担当。



開隆堂出版(英語)のLINE公式
アカウントを開設しました。
授業に役立つ情報を配信して
いるので、ぜひ友だち追加
してください!



@155fjwpt

CONTENTS

02 巻頭言 … 高梨 芳郎

04 RECOMMEND
私の本文指導法 … 大武 里美/田畑 真美江

06 特集
ゴールを見据えたリテリングの活用 … 田村 岳充

08 Webリレーコラム … 久保野 雅史

知っておきたい特別支援教育 … 飯島 睦美

私の本文指導法

中学校で指導されているお二人の先生に、本文の指導法をシェアしていただきました。

大武 里美

栃木県那須塩原市立
黒磯北中学校教諭



栃木県出身。神奈川県を卒業後、栃木県北部の中学校に勤務。現在は同校で英語教育の研鑽に励みつつ、英語担当として教鞭を執る。

▼ 図1 SUNSHINE 1 PROGRAM 5 扉ページ

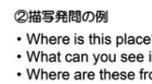


▼ 図2 SUNSHINE 3 PROGRAM 6 を用いた3段階発問の例

セクションの挿絵を使った本文理解のための3段階発問



- ①導入発問の例
- Where is Japan?
 - How many oceans are there in the world?



- ②描写発問の例
- Where is this place?
 - What can you see in this picture?
 - Where are these from?



- ③要約発問の例
- What is this land made of?
 - What are these five numbers?
 - How big is it?

POINT

導入、描写、要約の3段階発問で本文の理解を深める。

▶ 扉ページと挿絵を使った本文の導入

■単元の扉ページを使った3段階発問

SUNSHINEの各単元の扉ページには、題材に関連した写真が掲載されています(図1)。教科書本文を読み進める前に、ここで次の「3段階発問」を使ってインタラクティブな導入をします。

① 導入発問

題材に関して生徒がもともと持っている知識を活性化し、思考のスイッチを入れるための問いです。題材が「学校生活」であれば、「学校生活は楽しいか」などの身近な内容から始めます。

発問例

- Do you enjoy your school life?
- How do you come to school?
- Do you come to school safely?

② 描写発問

扉ページに描かれている状況について、生徒に説明を求める問いです。生徒とのやり取りの中で、意図的に

本文で使われる語彙や表現を含めることで、本文の理解につなげます。

発問例

- Where are they?
- What does he have?
- What is this flag for?

③ 評価発問

題材について、生徒自身の考えを引き出す問いです。題材が「登校の見守り」であれば、「自分も見守りメンバーになりたいか」のように問いかけ、題材を生徒に引き寄せて考えさせます。

発問例

- Some children work as the Junior Safety Patrol. Is it good or bad?
- Do you want to work as a member?

■本文の挿絵を使った3段階発問

本文に入ると、各セクションにもさまざまな挿絵や写真が掲載されています。それらを活用し、新たな「3段階発問」を行うことで本文の深い理解を促します(図2)。

① 導入発問と② 描写発問を行ったあとは、扉ページで行った評価発問のかわりに③ 要約発問を行います。本文内容の要点に関する発問なので、生徒はそれに回答することで本文の概要を捉えることができます。

本文指導では、扉ページや挿絵、写真を活用して、生徒と題材をつなぐことから始めませんか。

▶ 単元の題材を生かした指導の工夫

■単元の題材と生徒との出会い

生徒に自分の考えや気持ちを表現させるためには、まずは生徒の中に相手に伝えたい内容が生まれ、それを膨らませていくことが欠かせません。そのため、本文指導の際には、下記のような手順で生徒の心を動かしていきます。

- ①教科書の扉ページの活用
- ②独自に探した映像の視聴
- ③教師が自作した資料の提示

生徒と題材とをつなぐために、オーセンティックな資料を扱うことも意識しています。

■教科書本文を活用した

新言語材料の導入

(例) SUNSHINE 3 PROGRAM 5

新言語材料の導入を行う際には、本文の内容を活用し、言語材料と文脈とが切り離されないよう工夫します。自作スライドを活用し、題材であるチョコレートに絡めながら、関係代名詞を導入していきます。生徒

は最初の段階では、whoやwhichが何であるか、その詳細までわかりません。しかし、文脈の中で示されることで、それらが既習事項とは違う意味や用法を持つことに気づいていきます。その気づきについてペアやグループで話し合わせ、文のしくみや使用場面を自分のことばで説明させるのが効果的です。

■単元の指導計画を工夫

SUNSHINEの通常課は、扉→Scenes→本文…という構成ですが、私は1時間目から本文を扱い、以下のような工夫をしながら指導しています。

① 多くのインプット

- ターゲットとなる言語材料を含む英文を音声で聞く
- 写真を示し、視覚から理解を促す
- 音声で聞いた英文を文字で示し、音声と文字とをつなぐ

② Retellにつなげるアウトプット

- 自作スライドやワークシート(図1)などの資料を提示するとともに、教科書に掲載されている絵や写真

田畑 真美江

栃木県小山市立
乙女中学校教諭



千葉県出身。一般企業を経て教師になる。令和4年度前期内地留学生として宇都宮大学にて半年間の研修修了。異文化交流に興味があり、訪れた国は10か国以上。好きな国はタイ。

を活用し、英語で説明する活動を行う

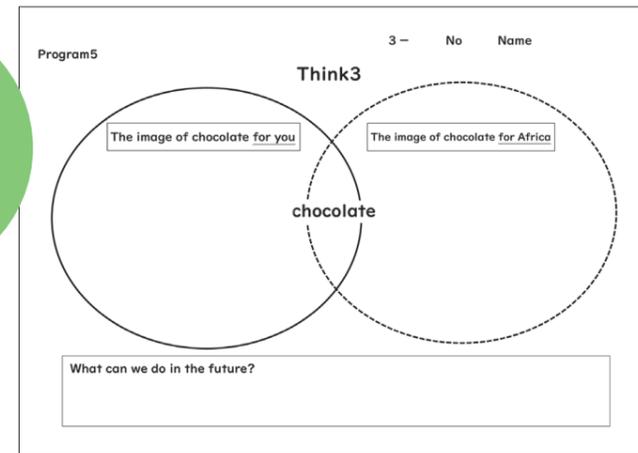
■大切にしたい中間指導

自分の考えや気持ちを表現することは、時に難しさを伴います。そのため、各自が疑問に思ったことをクラス全体で共有して、共に解決策を考える段階を踏むことが、単元のゴールにつながる大切な過程だと考えます。中間指導を適宜行っていくことで、生徒は自分の考えをより適切な表現で言い表せるようになっていくのです。

丁寧な中間指導こそが、豊かな自己表現活動につながるんだね。



▼ 図1 SUNSHINE 3 PROGRAM 5 本文活動用ワークシート



POINT

生徒が自分でメモを取り、話す内容を整理していけるように、自由度を高くしたワークシートを作成する。

単元指導計画や図1のワークシートは開隆堂出版ホームページからご覧いただけます。



ゴールを見据えたリテリングの活用



田村 岳充

宇都宮大学教職大学院 助教

Profile

大学での研究、教育と並行して全国各地の英語教員研修に関わる。2017-2020 NHKラジオ基礎英語講師。ペットのトイプードルに夢中。



SUNSHINE でも扱っている「リテリング」は、さまざまな実践がなされているようです。時間がなかでは、どうしてもすぐに使える活用法を求めてしまいがちですが、何のためにリテリングをするのか、まずはその目的を押さえる必要があります。

栃木県那珂川町のCAN-DOリスト(図1)を見ると、2年生が終わる段階で、話すこと(やり取り)では「日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて話すこと」を到達目標としていることが分かります。

この目標を達成するためには、自分の考えや気持ち、事実や説明を、自分で選んだ表現や語彙を使って即興で話す機会をくり返し設けることが重要です。即興で話す力は、言語活動を通して段階的に育んでいきますが、同時に、教科書を使ってそうした力を育むことも大切です。その一助となるのがリテリングで、リテリングを何

度も行うことで、先述の目標に近づく手立ての1つになるのです。

Retellを活用するための指導のステップ

SUNSHINE 2 PROGRAM 3のRetell(図2)を例に、具体的な指導手順を考えていきましょう。

Step 0 ガイダンスを行う

Retellを行う意味や意義を生徒と共有しましょう。授業開きの際に生徒と一緒に教科書をめくりながら、また、年度途中でもタイミングを測って再確認します。

- CAN-DOリストを生徒に提示し、1年間のゴールを共有する(生徒が理解しやすい平易な表現に変えるなど工夫もしたい)。
- Retellを行うことで育まれる力を確認する。

リテリングをくり返すことによって、生徒は自分の考えを整理して伝えることに慣れていくんだね。



図1 栃木県那珂川町の小中共通CAN-DOリストより一部抜粋

中学校第2学年	到達目標	話すこと(やり取り)
		学習到達目標
	2~3分会話できる	<ul style="list-style-type: none"> • 日常的话题について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。 • 聞いたり、読んだりしたことに対して、自分の考えや気持ちを理由とともに伝え合うことができる。

図2 SUNSHINE 2 PROGRAM 3 Retell

1 本文を通してもう一度音読し、内容を確認しましょう。

2 写真や絵、語句の中から話せそうなものを選び、本文の内容をペアの相手に伝えましょう。付け加えたい語句があれば、◆の右にメモしましょう。

3 相手をかえて、本文の内容を伝えましょう。相手が使ったよい表現はどんどん取り入れましょう。

festival
a corn dog

many food stands

enjoy
eat outside

street vendors in New York

the Netherlands
in "the Dutch way"

a traditional food like sashimi

Step 1 本文を自分のものにする

生徒が自分のことばで教科書本文の内容を表現できるようになるには、各セクションの内容理解を行う段階で、何度も音読するなど、本文に慣れ親しんでいる必要があります。さまざまな音読方法を取り入れ、生徒が飽きずに、楽しみながら取り組めるよう工夫しましょう。

Step 2 自分の考えを表出させる

本文の題材について生徒自身がどう感じ、考えているのかを問きましょう。本文ページにあるQ&Aのあとに、“Mao thinks street food is ..., right? Then what do YOU think about street food?”といった、生徒自身の考えを引き出す問いを加えます。その答えを考える中で、生徒は自身の考えをRetellの内容に加えることができるようになります。

Step 3 スモールステップで生徒を支える

Retellは1セクションずつ分けて行ってもかまいません。最初に教師が手本を示すのも有効です。また、教師が質問をし、生徒に答えさせることをくり返し、その答えた英文をつなげて言うやり取りも、Retellに生かします。たとえば、ハーリング(ニシンの酢漬け)の写真を見せながら、“Where can we enjoy this food in the Netherlands?”とたずねると、生徒は“Food stands.”のように答えるでしょう。その答えを膨らませて“We can eat haring

at ...?”と促すと、“We can eat haring at food stands.”という英文が引き出せます。

Step 4 中間指導を活かす

生徒が個人やペアでRetellの練習をしているときの中間指導では、中間指導の際に取り上げたい好例を探します。途中で一旦練習を止め、ピックアップした生徒を指名してRetellを発表させます。発表後、ほかの生徒によかった点をあげさせ、それらを確認してから後半の練習に移ります。教科書に例示されたキーワード以外に、どんなキーワードを加えたかを確認するのも効果的です。

Step 5 自分を客観視させる

練習中、ペアで互いのRetellの様子をタブレットで撮影し合います。映像を見返すことで、自分を客観視でき、何ができていて、何につまづいているかが明確になります。相互評価もあわせて行うとよいでしょう。

Step 6 あわてない、あわてない

Retellがしっかり、上手にできるようになるまでには時間がかかります。失敗をくり返し、気づき、改善し、またやってみる…ことをくり返して生徒は力をつけていきます。今すぐできるようにさせなければと思わずに、前回からの成長を見つけて認め、励ませるとよいでしょう。

Step 7 ゴールを意識させる

Retellを終えたら、ふり返りをさせましょう。よかった点、次がんばりたい点を書き出させると効果的です。また、Retellの積み上げがOur Projectのようなパフォーマンス活動にも必ず役立つことを生徒とともに確認するのもよいでしょう。

開隆堂のホームページには、Retell指導のための指導資料や映像が掲載されています。そちらもぜひチェックしてください。

これならできる！
リテリング指導



中学校英語Webマガジン
Sunshine FORUM Vol.4
Retellingのすすめ



Retell解説ムービー



Webリレーコラム

— 第2回 —

久保野先生に 聞いてみた



久保野 雅史 神奈川大学外国語学部教授

1960年横浜生まれ。県立横浜翠嵐高校、筑波大学第一学群人文学類(英語学専攻)卒業。神奈川県立外語短期大学付属高校(現・横浜国際高校)、筑波大学附属駒場中・高校を経て現職。

長らく日本の英語教育を支えてきた先生方による

「リレーコラム」を全4回で連載中です。

今回の質問はこちら！

- 英語に興味を持ったきっかけは？
- なぜ教員を目指そうと思ったのですか？
- 影響を受けた恩師、同僚は？
- 教科書著者として、やりがいを感じたエピソードは？
- 先生の余暇の過ごし方は？



久保野先生の回答はこちらから！ →

知って
おきたい

特別支援教育

第6回 マルチセンサリーの文字学習

視覚や空間認知、視覚短期記憶に弱さがある学習者たちは、鏡文字(b-d, p-q)を間違えやすく、漢字学習においても新しい漢字を作り出してしまったりすることがあります。一方、運動協応や指の力に弱さがある学習者たちは、筆圧が一定でなく、筆跡もぶれることが多く、判読しづらい文字を書いてしまうのが特徴です。これら2つの特徴は共存するケースが多く、学習者は書く作業に疲れやすいことから、文字練習や漢字練習を敬遠し、さらに苦手意識が増していくという負のスパイラルに陥ります。

このような場合、鉛筆で書く作業はひとまずやめて、文字の形と音との同定を目指しましょう。指先を使って、フェルトなどで作った文字をなぞりながら、その形をインプットする多感覚の方法が効果的です。多動性や不注意を持つ学習者の場合、目を閉じて指先に神経を集中させます。また、鉛筆を使った練習の前に、



▲フェルトで作った文字をなぞる活動(イメージ)

一定の濃淡で線がぶれないように直線や丸を鉛筆で描く練習を行います。ただし、教室でも1人1台ICT端末を使える時代ですので、書く作業に時間を費やして学習内容が疎かになるよりも、端末で代替できる作業はICTを活用し、学習内容に集中できる環境を保障したいものです。

飯島 睦美 群馬大学 大学教育センター教授

英国バーミンガム大学修士。大阪大学
大学院人間科学研究科博士後期課程単位
満期取得退学。



中学校英語情報誌

非売品

Sunshine Letter Vol.6



開隆堂出版株式会社

本社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1 ☎ 03-5684-6111

2024年1月5日印刷 2024年1月11日発行 編集兼発行人 岩塚太郎

発行所 開隆堂出版株式会社 〒113-8608 東京都文京区向丘1-13-1

☎ (03) 5684-6121 (営業)、5684-6118 (販売)、5684-6115 (編集) <https://www.kairyudo.co.jp/>

北海道支社 〒060-0042 北海道札幌市中央区大通西11-4-21 52山京ビル7階 ☎ 011-231-0403
東北支社 〒983-0852 宮城県仙台市宮城野区榴岡4-3-10 仙台TBビル4階 ☎ 022-742-1213
名古屋支社 〒461-0004 愛知県名古屋市東区葵1-15-18 オフィスサンゴヤ9階 ☎ 052-908-5190
大阪支社 〒550-0013 大阪府大阪市西区新町2-10-16 ☎ 06-6531-5782
九州支社 〒810-0075 福岡県福岡市中央区港2-1-5 FYCビル3階 ☎ 092-733-0174